

第5回千葉県新型コロナウイルス感染症対策連絡会議 専門部会 概要

1 日時 令和2年6月9日(火) 18:00～20:05

2 場所 千葉県庁本庁舎5階 特別会議室

3 委員(敬称略・外部委員につき五十音順)

猪狩 英俊	千葉大学医学部附属病院 感染制御部長
入江 康文	公益社団法人千葉県医師会 会長
亀田 信介	一般社団法人日本病院会千葉県支部 支部長
神山 潤	東京ベイ・浦安市川医療センター 管理者
小森 功夫	松戸市立総合医療センター 副院長
角南 勝介	成田赤十字病院 病院長
寺口 恵子	公益社団法人千葉県看護協会 会長
中村 朗	総合病院国保旭中央病院 化学療法科 院長補佐
西牟田 敏之	公益社団法人千葉県医師会 公衆衛生担当理事
馳 亮太	成田赤十字病院 感染症科部長
宮崎 勝	国際医療福祉大学成田病院 病院長
山本 修一	千葉大学 副学長
石川 秀一郎	千葉県衛生研究所 所長
杉戸 一寿	千葉県保健所長会 会長
山崎 晋一朗	千葉県病院局長

4 関係機関等

山口 淳一	千葉市保健福祉局 次長
舘岡 恭子	千葉市保健福祉局 医療政策課 担当課長
筒井 勝	船橋市保健所 所長
戸来 小太郎	柏市保健所 保健予防課 課長
広木 修一	柏市保健所 保健予防課 専門監
松本 尚	千葉県災害医療コーディネーター

亀田 義人	千葉大学医学部附属病院 特任講師
吉村 健佑	千葉大学医学部附属病院次世代医療構想センター センター長
佐藤 大介	千葉大学医学部附属病院次世代医療構想センター 特任准教授

5 県側出席者

加瀬 博夫	健康福祉部長
渡辺 真俊	保健医療担当部長
中村 勝浩	健康福祉部 次長
石出 広	健康福祉部 次長
久保 秀一	健康危機対策監
井上 容子	健康福祉政策課長
舘岡 聰	疾病対策課長
澤田 浩	高齢者福祉課長
原見 律子	障害福祉事業課長
田村 圭	医療整備課長

6 議題に係る主な意見等

○発熱者の外来の検討について

- ・発熱外来を設置するにあたり、課題となるのは就業補償であると思う。発熱外来に協力する医師自身が感染すると自分のクリニックを閉めなければならないし、その間、地域の患者を診療できないことになる。
- ・新型コロナウイルスは感冒症状と区別がつかないので、発熱外来を設置し、感冒の人を通常の医療機関で受診させないとなると、発熱外来に通常感冒の人が押し寄せるという状態になる。そのため、ある程度の流行状況になった時に切り替えるオプションを持っておくことが必要ではないか。
- ・発熱外来を設置し、症状の初期の段階でどんどん患者を見つけていくというスタンスなのであれば、最初に受診する医療機関で PCR 検査をできるような仕組みにしないと意味がないと思われる。
- ・発熱外来のあり方として、保健所単位において医師会と連携するやり方や、入院患者を受け入れない中小規模の病院に発熱外来を併設してもらうという考えもある。

○高齢者・障害者施設等における施設内感染対策について

- ・施設に対する啓発という観点では、施設は2,000か所もあるので、ビデオ配信などをしてもよいのではないか。
- ・県のクラスター等対策チームの登録・派遣について、流行している地域でクラスターが起きると、その地域の医療機関に所属する人は、自分の病院の対応で手いっぱい、手伝いたくてもできない状況であると思うので、ある程度、広域から集めることも必要だと思う。
- ・クラスター派遣については、まず、当日行って様子を見てくるというのが重要で、それを基にクラスター等対策チームの医師の中で情報交換をすることが大切である。

○病床確保の進捗状況について

- ・医療機関への病床確保のアンケートについて、実際に空ける病床の数と、患者を受け入れることができる人数には差があると思う。よって、アンケート結果については、実際に入院ができる患者数として整理しておくことが必要である。
- ・積極的疫学調査の結果、咳があるというような（軽症の）人を入院させようとする、

必要となる病床数は更に増えると考えられる。

○その他

- ・保健所の機能強化について、今後、更に進めるかどうかを整理する必要がある。
- ・県内には1万弱の精神科病床があり、入院は精神保健福祉法に基づき、精神病床で対応することになる。そこでのクラスター対応について、今後考えていく必要がある。